

週日の説教

金 大烈 神父 2011年11月15日(火)

《ザアカイの心 ～神様との真の出会いの体験～》

今日の福音(ルカ 19・1 - 10)のザアカイの物語は、1～2年前にも、想像の翼を広げて話したことがあります。

ザアカイについて想像してみましょう。徴税人、そして金持ちでした。しかし、背が低かったのです。昔も今も、東洋でも西洋でも、人間の秤の一つは、見た目です。背が高くて力があれば、格好よく思われます。生まれつき背が低くて、体の弱い男の人は、学校へ行っても、社会に出ても、自信を持つ姿が見えません。たぶん、ザアカイも子どものころから小さかったのでしょう。いつも、あちこちでいじめられて 劣等感に陥っていたと思います。しかし、頭は優秀だったのでしょう。それで、どうすれば自分がこの世の中で認められるかを考えた末、それはお金だろう、と考えたのでしょう。

“お金を儲けて、自分を軽んじる人を見返そう。”そう考えて、お金を儲ける方法を探したのでしょう。その結果、人々が恐れた職業を自分の職業としたのです。それは、自分の民族から税金を取り上げてローマに送り、その中から手数料をとる徴税人の仕事です。自分の民族を苦しめた人々に、自分の民族から取り上げたお金を送り、その利益で金持ちとなったのです。

ですから、イスラエル人は徴税人を人間として認めませんでした。今日の福音にも、『『罪深い男』のところに行って宿をとった。』と書かれています。しかしそのように悪い評判を受けても、手にお金があれば、表面的には軽んじる者は見えなくなります。だから「ああ、気分がよい。私が自分のプライドを守る方法はこれしかない。」と思いながら、民族を裏切る方法で富を積んだのでしょう。

しかしある日、「今まで聞いたこともない、預言者より偉い人がこの村を通る。」という噂が聞こえます。それを聞いたザアカイは、「どういう人だろう。」と気になります。「本当にそのような素晴らしい人がいるのだろうか。罪人や小さくされた人を解放する力を持っていると言われていたが、本当なのだろうか。」と。無視したほうがよいのかもしれない、と思いながらも気になります。そして、その人が来る当日、いつの間にか胸がドキドキしています。無視しようと思って寝ても、ほとんど眠れません。朝になったら、いつの間にか靴をはいて外に出ています。人々の声がうるさく聞こえます。それを聞いて、「本当に来たようだ。ちょっと覗いて見よう。」と思い、走って近づいてみます。しかし、大人になっても背が低いため、人々に邪魔されて見えません。そこで先回りをして桑の木に登ります。

金持ちで、地位のある者が、いろいろな人々がいるところで、木に登る姿を想像してみてください。恥も感じずに登ったのです。きっと、その人の中に何かがあったのでしょう。すると、イエス様が先に声をかけ、名前さえ呼びます。「ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい。」そう話しかけます。それを聞いて、ザアカイは急いで降りて来ます。周りの人々は、「罪人のところに泊まるなんて、あの人はおかしいのではないか。私たちはあの人にだまされたのではないか。」とつぶやいています。しかしザアカイは、立ち上がって、「わたしは財産の半分を貧しい人々に

施します。また、だれかから何かだまし取っていたら、それを四倍にして返します。」と言います。

想像してみてください。皆様は今、どのくらい財産を持っていますか。たとえば100万円だとしましょう。ただ一人の人物に出っただけで、50万円を貧しい人々にすぐ施せるでしょうか。

ザアカイのような出会いが、真の信仰の始まりです。これは、「施しをするのはよいことだと聞いているが、持っている物を出したほうがよいのか、出さない方がよいのか。」とためらうような段階ではありません。その人によって、一回の出会いによって、自分の名前を呼んで「私はお前の家に泊まりたい。」と言ってくれた言葉によって、彼の人生は180度変わります。それを『神様との出会いの体験』と言います。

私たちは、そのような体験を求めなければいけません。聖書の中には他にも全く同じような体験を見せている人物がいます。それは、マグダラのマリアです。誰でも、自分の嫌いなところを持って子どもの時から生きて来ます。みんな、その嫌いなところが劣等感になり、自分の正しさを邪魔することがあります。神様は、いろいろな方法によって、そういうところをよい方面に導こうとなさっていると私は信じています。

劣等感も優越感も、全て未熟なものです。しかし、考える角度を変えてみれば、自分の持っている痛みや傷が神様に会える恵みの種なのかもしれません。だから私はいつも話しているのですが、傷は隠そうとしてはもっと悪くなるだけです。もっとよい自分を作るのに一番役に立つのが、自分の持っている傷です。隠さずに前に出して、痛くてもどうすれば癒せるか、戦わなくてはいけません。

今日の福音は、個人的に私のものすごく好きな箇所です。なぜならば、この物語は、神様に望みを抱いている全ての人が深く黙想しなければいけない内容だからです。ザアカイの心境を図ってみましょう。自分が救われるための本物の出会いの体験。自分の財産、今まで求めて来た全ての物には意味がない。無視されたくなくて一生懸命に儲けたお金も全部捨てることができる。その後彼は、実際にイエス様の道に従って行ったのでしょ

う。2年前にもこの話をしたのですが、あまりにも私の好きな箇所なので、繰り返し少し違う角度で、改めて話してみました。ザアカイの心。そして、人々がみんな逃げてしまっても「私の先生、私の主、どこにいらっしゃるのか。」と人目を気にせずにイエス様の墓を探してさまよったマグダラのマリアの心。その心は、^{まこと}真の出会いがあったからこそ可能になったのだと思います。

今私たちが尊敬している数え切れないほどの殉教者たちも、彼らが恐れずに刀を受け入れられた力のもと、この出会いしかないと思います。

皆様、このような出会いが皆様一人ひとりにも与えられるように祈ります。

ありがとうございました。